

日本臨床歯科学会 大阪支部 2021 年度 第1回学術大会

大阪 SJCD 第 217 回例会

2021 年4月 4 日(日曜日)大阪府国際会議場・グランキューブ大阪において、日本臨床歯科学会 大阪支部 2021 年度 第1回学術大会 大阪 SJCD 第 217 回例会が開催された。

新型コロナウイルス感染防止のため感染防止に配慮しつつ、会場参加・Web 配信のハイブリッド開催とした。

勝部理事司会進行のもと米澤支部長の挨拶より開始された。



今回の例会は、大阪大学大学院歯学研究科の十河基文教授に

表題：今では当たり前『CT』を深掘りする

～インプラント・シュミレーションからガイド、天然歯の診断まで～
という内容でご講演いただいた。

前半は基本的な3D画像の注意点・活用法から、根管治療・ペリオ・インプラントの症例とともに供覧しCT活用のポイント・CT撮影において歯肉粘膜面の厚みを診断するための方法を含め、一工夫することによりより正確な読影をすることができることを、



後半はインプラント 診断における重要な項目として空間基準平面・
トップダウントリートメント、診断順序として歯列弓のアーチ・下歯槽
管の位置(どのように歯列弓のアーチを設定すると正確な下歯槽の位置
を診断できるのか)・インプラントの配置、診断のポイントの1つであ
る骨質診断はCT値を見ることが有効であること・そしてガイドサー
ジェリーの利点欠点についてをご講演いただいた。

講演後、十河基文教授・本多正明最高顧問・伊藤雄策相談役・座長の米
澤支部長の4名の先生で、新たな試みとしての座談会が開催された。

パノラマX線写真撮影時における位置づけなど日常臨床の疑問点が十
河教授とディスカッションされ、会場からは被曝量・防護服の有無につ

いて質問があった。また、X線から始まるデジタルデンティストリーに話が及び、その長所や問題点が論じられた。伊藤雄策先生のCT導入時の話や、本多正明先生のデジタルに対する考え方など、現在の取り巻く社会情勢などに対して、両先生を交えて十河教授と感慨深いディスカッションが行われた。



最後に大森副支部長の挨拶にて閉幕となった。

